

荒尾市立荒尾第三中学校 学校だより



つながる

校訓
自 創 協
主 造 力

R8. 5.15(金)No.4 立野 健一

体育大会に向けて(2)～「生徒」が主語に～



5月とは思えない暑さの中(熊本のある地域では30℃を超えたところもあったそうです)、その暑さに負けない熱さで執行部やリーダーを先頭に、3年生が中心となって体育大会の練習が行われています。「生徒」が主語の取組ではありますが、要所を先生方が指導したり引き

締めたりしながら、練習を行っています。

表の写真は、2段目までは先週から今週にかけての練習の様子、2段目の一番右は、先週土曜日の3年生の除草作業で集まった草の写真です。3年生、3年生の保護者の皆様、PTA役員の皆様、ご協力ありがとうございました。

3段目と4段目は、13日（水）の予行練習の様子です。私はその日が一日、玉名荒尾管内の校長会議が行われて、見ることはできませんでした。生徒にとっては一度やっておかないと、どのように動いていいかわかりません。とりあえずホッとしたのではないのでしょうか。あとはそこで出てきた課題をしっかりと分析し、改善するための方策を練って、それを全員で共有し、具体的に改善のための練習を行うことが重要です。

その意味で、15日（金）の練習はとても重要だったのです。だから、あえて私は生徒に苦言をのべました。真剣に活動すれば、上手いかなくてもだれも責めることはありません。むしろ、みんながうまくいくように応援したり、教えてくれたりすると思います。しかし、真剣にやらなければ、完成度も低いし、仲間との絆も思ったほど深まらないと思います。それどころか、真剣にやらなければケガのリスクが高まってしまいます。「できる・できない」ではなく、「(真剣に) やる・やらない」を大切にしてください

さて、どの団がもう一度気持ちを入れ替えて取り組んでくれるでしょうか。生徒たちが「踏ん張る力」「コミュニケーション能力」を身に付け、最後に全員が笑って「好きです三中」といえる体育大会にしましょう。

「みんな大好き」

大好きです 私は 愛しく思います
学校のにおいも 自分が使った机や椅子も
そして友だちも・・・
当たり前のように過ぎていった三年間
やりきれなさで泣いた時
友だちとつまらない事でも笑い転げた時
心臓がドキドキで爆発しそうになった時
そんな一瞬一瞬を 私は 愛しく思います
「思い出」という言葉に代えてしまうのが
もったいないくらい
北中で過ごした三年間が 大好きです

さて、左の詩はある学校の陸上部で、故障に泣き、挫折に泣いた生徒の作品です。おそらく大会に出ることができなかったか、出ることができたとしても、万全の調子ではなかったように想像できます。それでもこんな詩を書いたこの生徒は、いったいどのような三年間を送ったのでしょうか。いまの自分の毎日は、こんな詩が書ける毎日を送っているのでしょうか？

今の体育大会の取組は、この左のような詩が書けるくらい充実していますか？なにかやり残していることはあり

ませんか？全力で取り組むこと、真剣に取り組むこと、大きな声を出すこと、これらを恥ずかしがって手を抜いていませんか？ラジオ体操や行進、三中コール、校歌斉唱。一生懸命取り組むことが「かっこ悪い」と思っていないですか？むしろその逆。「一生懸命がかっこいい」のです。「一生懸命がかっこいい」、これが当たり前の荒尾三中ではないのですか？

**「一生懸命に取り組むことを仲間に伝え、一緒に取り組み、そこで本当のつながりを作る
三生中」「一生懸命取り組むことはきつけれど、そこで何とか踏ん張ってやりきる三生中」**

「バトンパスがうまくいかなかったり、団体種目で結果が出せなかったりしても、一生懸命取り組んだ仲間に惜しみない拍手と、前向きな声かけができる人権感覚を身に付けた三生中」。
私はそんな姿を本番で見ることができるとを期待しています。あと2日。